

レイチェル・コリー：屈しなかった光

2003年3月16日、ガザ地区南部で、ブルドーザーの下で大地が震え——その前に立っていたのは、23歳のアメリカ人女性だった。オレンジ色の安全ベストを着て、メガホンを手に、家族の家を守るために声を張り上げていた。彼女の名は**レイチェル・コリー**。

その日、彼女は砂の上に一人で立っていたが、魂はそうではなかった。彼女の心には、遊んだ子どもたち、食事を与えてくれた母親たち、人生に迎え入れてくれた家族たちがいた。彼女は自分の存在が機械を止めると思っていた。止まらなかった。機械が進むと、彼女の体を押しつぶした。しかし、彼女が立っていたものの本質を押しつぶすことはできなかった。

レイチェル・コリーは、ブルドーザーの重さだけで殺されたのではない。彼女は不正の重さで殺された——そして、その道を塞いで死んだ。

証人の形成

レイチェル・アリーン・コリーは**1979年4月10日**、**ワシントン州オリンピア**で生まれた——雨と森と静かな政治的良心の地。幼い頃から、レイチェルは他人の負担を感じていた。早くから、しばしば大きな質問をした。10歳の時、「世界の飢えを終わらせる」と目標を宣言した。それから離れなかった——より深く入り込んだ。

エバーグリーン州立大学で、彼女はグローバル開発、文学、政治理論を学んだ。しかし、レイチェルは理論だけでは満足しなかった。彼女は不正と向き合いたかった。軍事占領下のパレスチナ人の苦しみ——家屋の破壊、封鎖された国境、砕かれた夢——を知った時、彼女は危機をただ研究しなかった。**彼女は行った**。

2003年1月、レイチェルは**国際連帯運動（ISM）**の一員としてガザに到着した——パレスチナ主導の非暴力運動で、国際活動家を占領地の中心に迎え入れた。

そこで彼女の心は自分の大義を見つけた。そしてガザは娘を得た。

ガザ：彼女の良心の鼓動

レイチェルはガザをただ観察しただけではない——**彼女はその生活に入った**。彼女は**ラファ**の人々の間で暮らした。包囲と喪失に傷ついた都市。解体の脅威にさらされたパレスチナ人家族の家に滞在した。**アラビア語**を学び、子どもたちの宿題を手伝い、近隣住民とパンを分け合い、タンクの影に覆われた埃っぽい通りを歩いた。

ラファの人々は彼女を**客としてではなく**、自分たちのうちの一人として迎えた。愛情を込めて「**ラシャ**」と呼ばれ、距離を置かなかった。喪のテントに座り、母親たちの買い物袋を運び、

ブルドーザーで破壊された畑で農民たちと立った。彼女の存在は象徴的ではなかった——**本物**だった。

家への手紙で、彼女は耐え難い不正——そして世界の耐え難い沈黙——を描写した。

「私はこの慢性で陰險なジェノサイドを目撃している」と彼女は書いた。「また、私が不可能だと思っていた強さと寛大さの度合いを発見している。」

レイチェルは**連帯**がスローガンではなく——犠牲であることを理解していた。そして彼女はそれを与える準備ができていた。

最後の抵抗：永遠の証人

2003年3月16日、レイチェル・コリーはラファの**ナスララ家の家**の前に立った。彼女はその家に住み、食卓を共にし、その屋根の下で眠っていた。その日、イスラエル軍は**キャタピラーD9ブルドーザー**を送り、家を破壊した——ガザで数百の他の家と同じように。レイチェルは前に出た。明るいオレンジのベストを着て、メガホンで叫び、開けた野原で明確に見えていた。

機械が進んだ。止まらなかった。後退した時、レイチェルの体はその下に横たわっていた——押しつぶされ、命を失い、しかし永遠に不滅のものに変えられた。

イスラエル当局は**彼女の遺体を押収した**。次に起こったことは、第二の、より静かな暴力だった——今度は彼女の家族に対して。家族の権利や悲しみを尊重せずに、イスラエル当局は**家族の同意なしにレイチェルの体を解剖し、その後火葬し、オリンピアの両親に灰だけを返した**。

レイチェルの母**シンディ・コリー**は後にイスラエル裁判所と国際インタビューで証言した：

「解剖について私たちは一切相談されなかった。彼女の体が解放される前に必要だと言われたが、いつ、どこで、誰が、または私たちの要望が無視されることは伝えられなかった。」 — シンディ・コリー、2010年ハイファ地方裁判所証言および2015年インタビュー

この最後の侮辱は、ケアや同意なしに行われ、彼女の死の不正の中で今も心に残る章である。それは家族に最も基本的な権利さえも否定した——娘の体を平和、祈り、存在で扱うこと。

しかし**ガザ**では、彼女の魂は**尊厳**をもって称えられた。そこでレイチェルは沈黙に埋葬されなかった。彼女は**シャヒーダ**、殉教者として持ち上げられた。ラファの文化で、彼女が守って死んだ家族たちの目には、暴力ではなく**生命の防衛における犠牲**によって最高の道徳的地位を達成した。

ラファの人々は**象徴的な葬儀**を行った。彼女の写真をパレスチナ旗で包み、記憶を街路に運び、無垢な者を守って死んだ者たちを称えるコーランの詩句を呼びかけた：

「アッラーの道で殺された者たちを、死んだと思うな。いや、彼らは主のもとで生きており、糧を与えられ、アッラーが彼らに与えた恵みに喜び、彼らの後にま

だ加わっていない者たち[殉教する者]について良い知らせを受け取る——彼らに恐れはなく、悲しまない。彼らはアッラーの恩恵と恩寵、そしてアッラーが信者の報酬を無駄にしないという事実の良い知らせを受ける。」(スーラ・アーリ・イムラン 3:169-171、サヒーフ・インターナショナル)

レイチェル・コリーはムスリムではなかったが、**シャハーダの精神**——死に至るまでの真理の受容——は彼女の中に完全に生きていた。彼女の殉教は**ガザの人々によって受け入れられただけでなく、神聖化された**。彼女の名前は、正義、尊厳、他者のために命を与えた者たちの聖なるリストに加わった。

忘れなかった家族

レイチェルの両親**クレイグとシンディ・コリー**は、悲しみに内向きになることもできた。代わりに、彼らは目的を持って外に向かった。彼らは**レイチェル・コリー平和と正義財団**を設立した——過去の記念ではなく**未来への約束**として。

彼らは裁判所、政府、大学に立ち——娘と彼女が立った人々のために正義を要求した。2012年、イスラエル裁判所は彼女の死を「事故」と判断し、国家を免責した。しかし、クレイグとシンディの使命は揺るがなかった。

今日まで、彼らは**パレスチナ人の権利の擁護に個人的に関与**し、沈黙させられた声を増幅し、レイチェルが歩んだ道を歩き、彼女が死んだ真理を体現している：正義は一つの国、一つの信仰、一つの民族に属さない——それは普遍的な遺産だ。

娘は命を失わなかった。彼女は**それを捧げた**、自由に。

彼女が残した光

レイチェル・コリーの名前は今、ガザ全土の壁画に生きている。学校は彼女の名を冠している。子どもたちは、ほとんど誰もそうしなかった時に彼らのために立ったアメリカ人について教えられる。彼女は詩、映画、徹夜の祈りで記憶される。彼女の手紙と日記から編纂された劇**My Name Is Rachel Corrie**は、世界中の観客を涙に誘った。

しかし、彼女の本当の遺産は**芸術や記憶ではなく**——彼女が他人に目覚めさせた生きている良心にある。彼女は数千人を鼓舞し、抑圧システムでの自分の役割を疑問視させ、占領され追放された者たちと連帯して立ち、**たとえ一人の人間でも、真理が導けば不正の壁に立ち向かえる**ことを思い出させた。

パレスチナ人の心の中で、レイチェル・コリーは象徴ではなく**姉妹**——愛が海を越え、犠牲が彼女を正しい者たちの世代と結びつけた。

結論：沈黙させられない証人

20年以上が過ぎたが、レイチェル・コリーの名前はまだ響く——難民キャンプ、教室、抗議、祈りで。彼女は兵士でも外交官でも政治家でもなかった。彼女は人間だった——恐れを知らず、原則的で、愛に満ちていた。

彼女は自分のためにガザに来たのではない。**彼らのために**来た。そして彼女は留まった。

「一つの命を救う者は」とコーランは宣言する、**「全人類を救ったかのよう
だ。」**（スーラ・アル・マード 5:32）

レイチェル・コリーは多くの人を救おうとした——暴力ではなく、存在で。彼女は恐れで沈黙させられなかった。抑圧のエンジンの前に屈しなかった。そして体は砕かれたが、彼女の証言は砕かれていない。

レイチェル・コリーは去っていない。

彼女は**生きている**——記憶に、魂に、彼女に続くすべての勇気の行為に。彼女は主のもとで生き、殉教者たちの中で、彼女が向かった光に喜んでいる。

彼女は立ち、倒れ、立ち上がった——**永遠に**。

参考文献

- Corrie, Rachel. **Let Me Stand Alone: The Journals of Rachel Corrie**. 編集：Cindy Corrie および Craig Corrie. New York: W. W. Norton & Company, 2008.
- 聖クルアーン。翻訳：Sahih International. Jeddah: Abul-Qasim Publishing House, 1997.
- International Solidarity Movement. “**Remembering Rachel Corrie.**” 声明および目撃者証言、2003.
- Human Rights Watch. “**Israel: Investigate Death of American Protester.**” プレスリリース。2003年3月17日。
- Amnesty International. “**Israel/Occupied Territories: Death of Rachel Corrie Must Be Investigated.**” 公開声明。2003年3月18日。
- 国連人道問題調整事務所（UNOCHA）。“**Rafah Demolitions: Overview and Humanitarian Impact.**” ガザ地区フィールド更新、2003.
- Corrie 対 イスラエル国。**ハイファ地方裁判所判決**。事件 371/05。2012年8月28日。
- イスラエル最高裁判所。**Corrie 対 イスラエル国控訴の決定**。事件 8573/12。2015年2月12日。
- Rickman, Alan, および Katharine Viner, 編集。**My Name Is Rachel Corrie**. London: Nick Hern Books, 2005.
- Rachel Corrie Foundation for Peace and Justice. **使命声明および公共擁護資料**. Olympia, WA, 2003–現在。